

開講科目名／Course	母性看護学実習	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	2.0	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名／Instructor	徳丸 由布子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	母体に宿った新しい命が健やかに育まれ、そしてこの世に誕生し、成長発達していく過程を健康面より援助することが母性看護の主な役割であり、母性看護学は、親になることの支援を通して、次世代の健全育成を目指す学問である。そのため、母性看護学実習では、ウェルネスの視点から周産期における母子とその家族の全体像を把握し、対象の看護過程の展開を通して必要な援助が提供できる基礎能力を養う。また、母子及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割について理解するとともに、周産期医療における関連領域専門職者との連携について学ぶ。さらに、生命の尊厳についての認識や自己の看護観を発展させる機会とする。	
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥・新生児各期の母子とその家族の特徴及び必要とされる看護援助について述べるができる。 2. 母性看護の対象者の個性やウェルネスの視点を踏まえた看護過程を実践できる。 3. 母子とその家族への援助に関わる多職種や地域社会との連携及び保健医療チームの一員として看護職者の役割について述べるができる。 4. 生命への尊厳の念を抱き倫理的にケアを実践できる専門職としての姿勢について述べるができる。 5. 看護実践上の課題を明確にして自己の看護観を述べるができる。 6. 自らの母性または父性について述べるができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	実習期間：2週間（2025年9月1日～11月21日） 実習施設：大分県立病院、堀永産婦人科医院、いしい産婦人科医院、生野助産院、サロンリラ/どーナつ助産院 実習方法：妊産褥婦・新生児を受け持ち、母性看護学で学んだ看護を実践し、看護過程を展開する。	
その他の授業の工夫	母性看護援助論、母性看護学演習で学んだ知識や技術を自己学習により整理し、知識を修得してから実習に臨む。	
時間外学修	事前学習ノートの課題を提示するので各自内容を整理し、知識を修得する（8h）。	
評価方法と評価割合	評価表を用いた実習目標の達成度（88%）と実習態度（12%）にて評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]（医学書院） 病気がみえる vol.10 産科（メディックメディア） ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱耕子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師、助産師
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	